

NCJTA NEWSLETTER
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第33号・2010年 10月発行

北加日本語教師会 2010年秋の例会
アロン・ウルフオーク (Aaron Woolfolk) 氏
(映像作家・映画監督)
『The Harimaya Bridge はりまや橋』
Saturday, November 6, 2010
Berkeley City College



日本語教育ならびに日本語教師会のあり方を今一度考えてみよう

南 雅彦

北加日本語教師会 (NCJTA) 会員の皆様は、夏休みをどのようにお過ごしになりましたか。今年の夏、私は「日本語教育をどのように捉えてゆくのか」「日本語教育に携わる意味は何なのか」といった問題に関して、日本とアメリカの両方で、いろいろな方々と意見交換する場を持つ機会をいただきました。そうした意味で、とても有意義な夏を過ごせたと思っています。まず、私は6月上旬に日本にいましたので、梅雨はおろか、蒸し暑さも経験しませんでした。今、私の手元に『共生のまちづくりに向けた地域日本語教育プログラム』という研究報告があります。この研究報告は今回の日本訪問で、地域の日本語教育に従事されている方からいただいたのですが、外国から日本に移住してきた人たちが、日本社会の中で安定した生活を送り、日本社会の構成員として、日本人とともに新しい日本社会を作っていく上で、日本語教育が不可欠であるという視点に立っています。つまり、日本定住者となった外国人が、日本のどこかに住まいを持って生活を始める、その過程で医療や福

祉にかかわる問題が発生する、そうした中で、地道な草の根運動的な国際交流や多文化化とのかかわりが顕在化してくるわけで、日本語教育が日常生活に密着したさまざまな問題の中でどのような役割を果たしているのか、もしくは、どのような役割を果たしてゆくべきなのかを議論しています。

(これに関しては、国際交流基金の関西国際センターが「医療・看護・介護分野の専門日本語教育」に関して力を注いでいるようなので、個人的には注目しています。) 地域日本語教育プログラムのキーワードとしては、「日本語学習」ばかりでなく「居場所」「交流」「地域参加」「国際理解」などが列挙されているのですが、これは北カリフォルニアの大学ばかりでなく、コミュニティカレッジや小中高で日本語を教えていらっしゃる方々も共有できる重要な概念だと思います。

さて、日本からサンフランシスコに帰ってきて、例年の夏のように読書・執筆を中心とした静かで有意義な時間を過ごしました。ただ、『トム・ソーヤーの冒険』を書いたマーク・トウェインが「人生の中で過ごした一番寒い冬は夏のサンフランシスコだった (The coldest winter I ever spent was a summer in San Francisco)」と語ったという言い伝えまであるくらいですが、今年の夏のサンフランシスコは特に寒く、曇天の日々に辟易しました。皆さまも、サンフランシスコご在住なら経験されたかもしれません。そうした“鬱状態”から私を救いだしてくれたのは、8月に参加した日本語教育リー

ダーシップのワークショップでした。NCJTA のような特定の言語（ここでは日本語）を対象とした教師会をどのように運営し、*Foreign Language Association of Northern California* (FLANC) のような外国語教育全般を対象とした教師会とどのように関わってゆくかについてのワークショップでした。こうした場での日本語教育の問題は、上述した地域日本語教育プログラムにおける問題の捉え方とは趣をずいぶん異にしています。私の理解では「日本国内では、日本定住者の日本語教育ばかりに目が行き、視野が狭い、海外での日本語教育にもっと目を向けるべきだ」という論調であったと思います。そうした批判が正鵠を射ているかどうかはともかく、論旨は「海外での日本教育の重要性を日本国内に向けて発進する必要がある、私たちにはその義務がある」というもので、この議論にはもちろん一理あると思います。同じ日本語教育に従事しながら、日本国内で日本語教育、とりわけ地域密着型日本語教育プログラムに携わっているのと、海外で日本語教育に携わっているというように、立場が異なると「日本語教育に対する視点がずいぶん異なるものだ」と感じた次第です。これは私の個人的な感想ですが、偏ることなく、大局的に言語教育のあり方を考えてゆきたいと感じました。

上記の意味でも、日本語なら日本語、中国語なら中国語といった特定の言語の教師会ではなく、外国語教育全般を対象とした教師会と提携してゆくことは大切だと考えています。NCJTA では、新しい広報活動として FLANC のニュースレターにも日本語教育関連記事の掲載を一昨年より積極的に行なっています。次号の FLANC ニュースレターには、NCJTA 春のニュースレター『言葉の窓』に掲載された De Anza College の郭敏俊 (Kuo Min-Jin) 先生の『漢語の語尾声についての一考察—中日韓台四言語の比較』の英語版が掲載されるよう手配しておりますので、どうぞご期待ください。また、こうした広報活動を通して、日本語の存在感を見せつける、他の言語を教えている方々に理解してもらおうこと、「特定の言語プログラムが脅威である」と無意味な敵視をするのではなく、また日本語という殻に閉じこもらず、他の言語の先生と交流を持つことは、非常に重要なことだと考えています。今後もこうした広報活動をさらに積極的に行なってまいりますので、皆様、どうかご参加、ご出席、そして NCJTA ニュースレターばかりでなく、FLANC ニュースレターにも日本語教育関連の記事をご投稿いただけますようお願い申し上げます。

NCJTA は、外国語教育全般を対象とした教師会である FLANC と連携していますが、日本語教師会相互の連携をけっして軽んじているわけではありませぬ。まず、NCJTA も FLANC も地域限定の教師会です。NCJTA が提携・所属している FLANC は州レベルの *California Language Teachers' Association* (CLTA) と連携しています。今後は、よりいっそう広い視点から「教師会にとって、何が大切なのか?」といったもっと根源的な問題を考えていきたいと考えています。次に、NCJTA 会員の皆様からは年会費をいただいているわけですから、「情報を提供する」「日本語を教室で教える際のアイデアを提供する」「研究の場、発表の場を提供する」など、さまざまな努力をしてきたつもりです。たとえば、今年の NCJTA 春の例会は、5月2日(日曜日)午後1時~3時にジャバントウンの *New People* で開催しました。その際には紀伊国屋書店の割引券、デリカ (Delica) のお弁当を提供させていただくなど、年会費に見合った差別化を企画してきたつもりですが、NCJTA 会員の皆様には、まだまだご満足いただけてはいないのかもしれないかもしれません。ここに述べたことは、春の例会でサンフランシスコ市立大学 (City College of San Francisco) のグラント先生もおっしゃっていました (春の例会報告を参照)。NCJTA のような北カリフォルニア限定の教師会が、全国レベルの日本語教師会と提携することは今後のさらなる発展に必要不可欠でしょうし、今後はそうした方向に発展させていきたいと存じます。

こうした意味でも、今秋はさまざまなイベントを通して、NCJTA のさらなる発展と活性化のために、意を新たにして、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。11月5日(土)には FLANC の年次発表会が Berkeley City College で開催されます。NCJTA 会員の皆様は NCJTA のほうに前もって \$20 お支払いの上 (payable to NCJTA です) 事前登録していただきますと、FLANC のメンバーでなくても FLANC にも終日参加できるようになりました。もちろん、FLANC のメンバーになっていただければ日本語教育ばかりでなく外国語教育全般への視野も広がると思いますので、ぜひご一考ください。この Newsletter に申込書を添付しますので、ご記入の上、\$20 をそえて会計の斎藤先生までお送りください。

また、従来通り、NCJTA 秋の例会は、午後3時から FLANC の午後のセッションの1つとして開催予定です。NCJTA の例会では、2009年5月『第62回カンヌ国際映画祭マルシェ』で上映され、去る5

月と8月にベイエリアでも公開された映画『The Harimaya Bridge はりまや橋』の監督アロン・ウルフォーク (Aaron Woolfolk) 氏をお招きして、お話を伺います。氏は UC Berkeley 卒業後、自身も JET プログラムに参加され高知県で生活された経験を持つアフリカ系アメリカ人映像作家です。映画は昼食時間に上映予定ですが、どんな人の心にもある誤解、偏見、憎しみ、そして愛を描き、国境という「橋」を越えた日米韓合作映画で、愛した男性を想いながら孤独に暮らすひとりの女を高岡早紀が演じています。どうか御期待ください。秋の例会は、ネットワークキングの場としてもご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、どうかふるってご出席ください。

さて、その翌日の11月6日(日)ですが、一昨年から NCJTA も後援団体として参加している北加日米会 (Japanese American Association of Northern California : 略称 JAANC) 及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第37回日本語弁論大会が、同総領事館広報文化センター (Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105) で開催されます。今年も昨年同様、午前は中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に10月8日(金)午後5時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。ここで総領事館のご紹介をしましたので、8月に帰朝された長嶺安政総領事、同じく9月に帰朝されましたが、弁論大会では過去2年間にわたり審査員としてご一緒させていただいた光岡英行首席領事には、この場を借りてお礼申し上げます。

最後に、12月5日(日)は習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験』が SFSU で実施されます。試験会場は、さらに増加し現在では全米11会場となっていますが、サンフランシスコはロサンゼルスに次ぐ2番目の規模で、受験者定員が600名です。このように大規模になりますと、NCJTA 会員の先生で労働許可をお持ちの方には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。よろしく願い申し上げます。ちなみに、日本語能力試験は、今回から新試験形式を採用し、従来の4レベルから5レベル、N1 (Advanced)、N2・N3 (Intermediate)、N4・N5 (Beginner) となります。これは従来の3

級と2級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したもので、従来の2級をN2とN3に分割することで、2級に合格することが隘路とならないようにする、またコミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図があります。試験科目は、これまで同様「言語知識(文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」に大別できますが、最も難易度の高いN1と、その次に難易度の高いN2では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目になるというような変更点もありますので、ご注意ください。このように今秋もさまざまなイベントを通して、NCJTA のさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と引き続き一緒に勉強させていただきたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。



NCJTA 春の例会報告

北加日本語教師会 (Northern California Japanese Teachers' Association : NCJTA) 春の例会 (Spring Meeting) は、5月2日(日)正午から午後3時まで、サンフランシスコのジャパントウン(日本町)に昨年2009年夏オープンの新 People (1746 Post St.) で開催された。昼食が11時45分より配られ、12時半から New People ツアーが始まり、講演は午後1時から午後3時までだった。今回のテーマは『日米関係の過去、現在、未来をつなぐサンフランシスコ：咸臨丸入港からアメリカにおけるJ-ポップ発信拠点まで』(San Francisco: A City connecting the Kanrin Maru, which represents the past U.S.-Japan relations, and J-Pop, which characterizes, at least in part, the current U.S.-Japan relations) ということで、まず『咸臨丸150周年記念事業』の一環として、日本国総領事館光岡首席領事からの『咸臨丸の歴史とその意義』、次に VIZ Pictures 社長兼 CEO の堀淵清治氏より『J-ポップ発信拠点である New People』、最後にサンフランシスコ市立大学 (City College of San Francisco) グラント先生に『NCJTA、38年の歴史を振り返って』ということで講演をしていただき、日本語教育の先生や学生、50名近くの会員が参加した。下記はその簡単な要約である。

① 日本国総領事館光岡首席領事『咸臨丸150周年記念事業』

咸臨丸は、150年前の1860年(明治維新の8年前)に日本人を乗せて、初めてアメリカ合衆国を

公式訪問した日本の船である。同船の渡航目的は、日米修好通商条約の批准書文書を交換するための正使節団として幕府要人が乗った米船ポーハタン号 (USS Pawhatan) を護衛する副使節団であった。実際には、遠洋航海の技術の向上で太平洋が渡れるかどうかを試してみたかったようである。米船とともに浦賀を出発した咸臨丸には、ジョン・マーサー・ブルック隊長 (John Mercer Brooke) ら 11 名のアメリカ人乗組員ばかりでなく、96 名の日本人、その中には勝林太郎 (のちの海舟)、ジョン万次郎、福沢諭吉なども乗船していた。出航から正使節団に 12 日遅れて、38 日後の 3 月 17 日、サンフランシスコの Vallejo Street (現在のピア 9 あたり) に到着した。

渡航中、日本人とアメリカ人の間ではいさかいがあつた。当時航海中に飲む真水の量は一日に一人何リットルと限定されていたにもかかわらず、アメリカ人の乗組員の一人が規定量を超えて水を使用し洗濯をしていた。それを目撃した日本人乗組員の一人が非常に怒り出し騒動となった。その話を聞いた技術アドバイザーで実質的には艦の指揮を執っていたブルック隊長が「米国人であれ、日本人であれ、決めた掟を破ったものは銃殺刑に処す」と命じた。隊長の公平かつ公正な対処を見て一見落着となり、その後はなんとかうまくやっていったという。サンフランシスコへ到着した後も、地元の人々とののはじめての交流で戸惑い、初めてのエレベーター、ワインという新しいお酒、写真館で若い女性と一緒に写真を撮ることなどに驚いたようだ。

日本における船 (特に軍艦) の開発事業の必要性は、1853 年のマシュー・カルブレイス・ペリー (Matthew Calbraith Perry) 率いる黒船 4 隻の来航に帰する。この歴史的な事件に江戸幕府や庶民は驚き、「太平の眠りを覚ます上喜撰たつた四杯で夜も眠れず」——太平の眠り (鎖国) を覚ます上喜撰 (お茶の名だが『蒸気船』 (黒船) をかけて、たつた 4 杯で夜も眠れずで、目を覚ます、すなわち開国することにかけている——) といった歌も詠まれた。1855 年 (安政 2 年) 長崎海軍伝習所練習艦としてオランダより江戸幕府へ贈呈された観光丸 (かんこうまる) が日本における初めての蒸気船で、この名は中国の『易経』の「観国之光 (国の光を観る) に由来する。1857 年、2 番艦として江戸幕府が咸臨丸をオランダから購入したため、オランダ語の発音で Japan (ヤパン号、ヤッパン号、ヤーパン号) とも言われている。この名の由来も『易経』で「咸臨」とは君臣が互いに親しみ合うことを意味している。咸臨丸は全長 50 メートル、

幅 7 メートル、300 トンの重量と 100 馬力 (1 時間に 10km ぐらい)、3 本のマストをもつ帆船で、風力で航海するというかなり小さいものだったが、咸臨丸での航海と米国人との交流は当時の日本の指導者層に多大な影響を与え、外に目を向けなければいけないと明治維新への道を駆り立てたのである。

咸臨丸 150 周年記念の一環として、3 月 13 日には 150 本の桜が植樹されたり、アジア美術館での人形のイベント、パークレーでの凧揚げ大会など、数々の催しものが開催されているので、ぜひ参加してほしいとのことだった。咸臨丸のウエブページは以下の通りである。http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jp/m16_01.htm

② 堀淵清治氏『VIZ Pictures と J-ポップ発信拠点である New People』

VIZ Pictures (<http://www.viz-pictures.com/>) 社長兼 CEO の堀淵清治氏は徳島県出身で、早稲田大学在籍中にパークレーに 1 ヶ月間滞在した際、ベイエリア、特に若者文化の魅力に取り憑かれ、卒業式にも出席せずに 1975 年「カルマ的」繋がりを感じたベイエリアに戻ってきた。大学院に入ったものの考える所があり、途中で退学した。「ヒッピー」生活を 10 年送った後、1986 年に小学館、集英社の支援で VIZ Communications を設立し、漫画やアニメをアメリカでヒットさせ、日本の漫画をアメリカへ流通させる立役者となった。しかし、漫画やアニメに続くものは「映画」であろうと感じ、2005 年に日本映画を配給する VIZ Pictures を設立し、サンフランシスコ日本町の J-Pop Center Project 事業のビジョナリーとして総額 17 億円で建設された 3 階建ての New People の設立に貢献し、その地下に映画館 VIZ Cinema をオープンした。

(<http://www.newpeopleworld.com>)

堀淵氏によると、漫画やアニメに触れたアメリカの若者たちの間で、日本のポップカルチャーに対して興味が高まっている。1990 年代に『ドラゴンボール』を楽しんだ当時の若者は今や 30 代、中には 15、6 歳の子どもを持つ「親」となった人たちが、自分の子どもに、そのおもしろさを伝え、今日の新世代米国人が「日本は cool place だ」と認識し始めている。そういったニーズに応えたいという思いから、VIZ Cinema では「Kawaii・Kuuru (かわいい・クール)」を中心的コンセプトとし、「日本に行きたくなるような映画」——コンテンツポラリーで、「観た後で元気になって気持ちが楽になるような映画」——を精選している。143 席からなる VIZ Cinema は、日本の映画だけを放映する海外で唯一の映画館で、すべてのデジタル素材を

放映できるので技術的にはかなり優れたもののようにだ。この設立背景には、以前日本町にあった国際劇場がアメリカの不動産会社の管理下でなんと突然「デニーズ」に変容してしまってショックを受けた教訓からの思いもあるそうだ。VIZ Picturesのサイトに行けばその月に上映されるさまざまなMovie Trailersがあるので楽しい。マンガをベースとして作られた映画を盛りだくさん紹介しているが、堀淵氏がリストされたものの一部を紹介しておく。

『下妻物語』 Kamikaze Girls	『電車男』 Train Man: Densha Otoko
『リンダ リンダ』 Linda Linda Linda	『ピンポン』 Ping Pong
『茶の味』 The Taste of Tea	『フラガール』 Hula Girls (*特にお勧め)
『ラブ★コン』 Love ★ Com The Movie	『ナイスの森』 Funky Forest: The First Contact
『レイトン教授』 The First	『ハチミツとクローバー』 Honey and Clover
『NANA』 Nana 1 & 2	『舞妓 Haaaaan!!!』 Maiko Haaaaan
「NARA : 奈良美智との旅の記録 Travel with Yoshitomo Nana	『デスノート』 Death Notes 1 & 2 (*特にお勧め)

New People は、ロリータ系のブティック、ショップ、アートギャラリー、そして VIZ Cinema となる透明感のある J-Pop の発信地にふさわしい新しいスタイルの建物である。*New People* は、構想から4年の歳月をかけて昨年8月15日にオープンとなったが、このように長い年月がかかったのは、サンフランシスコでは80年以上の建物を壊し立て直すための許可がすぐには下りず、取得までに1、2年かかったからだという。2007年11月に地鎮祭をシアトル郊外在住のアメリカ椿大神社(つばきおおかみやしる)のコウイチ・バリッシュ神主 (Rev. Lawrence Koichi Barrish) により執り行なったそうだが、そのバリッシュ神主は、もとはLAサーファーで合気道を始めたのがきっかけで「神道オタク」となり、自分の手で神社を建てたという人物である(まさに *New People* の地鎮祭の神主には最適な人材ではないかと思われる: 筆者考)。

New People の昨年のグランドオープニングには、ロックコンサート・ファッションショー・ストリートフェアなど、いろいろなイベントを盛り込んで、約3万3000人の人が訪れ、また、Red Carpet というベイエリアのテレビ番組の第1回目の番組

として放送された。今後は4月にある伝統的な桜祭りとともに、夏か秋に J-Pop Summit といった形でコンテンポラリーのフェスティバルとして年中行事として行ない、将来的には「多くの日本語学習者も含め、5、6万人の人々に来てもらえたらと願っている」と堀淵氏は話された。

堀淵氏によれば、ポップカルチャーの発祥地としての *New People* は、「年齢、性別、宗教を問わず、新しいものに対し好奇心をもち、リスクを恐れず、他人をいたわり思いやる自由な発想をもった人を大歓迎する」という信条に基づいている。「今、日本は苦境の時代だが、日米の架け橋として J-Pop に憧れをもつような刺激的な『聖地』にしていきたい」と同氏は続けて話された。日本のポピュラーカルチャーに触れる人々は、自然と日本語や日本文化に興味を持つようになっていく傾向があるので、*New People* が今後の日本語教育にも何らかの肯定的な影響をもたらすであろうと考えられる。

③『NCJTA、38年の歴史を振り返る』サンフランシスコ市立大学 (City College of San Francisco) グラント先生

北加日本語教師会 (NCJTA) は、38年前「日本語をどのように教えたらいいのだろうか?」と暗中模索をしていた日本語教師たちが、当時サンフランシスコ州立大学教授であった故三島登志子先生を中心に集まり、日本語教授会として発足したのが端緒である。1990年代の日本語ブームの中、国際交流基金からの支援により、サンタバーバラで開催された外国語教師研修会に参加する機会に恵まれた。そこで、機械的な練習を中心とするのではなく、コミュニケーション能力の育成を重視し、ペアワークを多用しながら、情報の格差 (インフォメーション・ギャップ: information gap) を埋めることがコミュニケーションの本質であると考えたコミュニカティブ・アプローチ

(communicative approach) を学び、NCJTA で共有したりするなど、同教師会は日本語教授法を学ぶ場を提供していた。しかし、1990年代後半より、さまざまな教授法が開発され、今回もこのような「講演」という形式の教師会なども開かれているという時代の変遷を振り返り、今後の教師会はどのような教師のニーズに答えていくべきなのだろうか、また、「私達日本語教師は『なぜ日本語教師をしているのだろうか?』ともう一度問いなおしてみる必要があるのかもしれない」とグラント先生は話された。

「日本語教育が政治や経済の風に押されている現在、南加日本語教師会と比較すれば、北加日本

語教師会はこじんまりしてはいるが、このサイズだからこそ、まとまりやすいという利点があり、日本人は国民性としてなかなか自分から外に出て行くことができないけれど、それを乗り越え、これからは会として団結して前進していかなければならないと感じる」とグラント先生は強調され、さらに、「サンフランシスコの日本総領事館やコミュニティとの繋がりは今後も大切にしておくべきだろう」と話された。

(文責 増山和恵)
(校正 南 雅彦)

2010年 秋の役員会報告 北加日本語教師会役員会

日時：8月22日、日曜日、午後12時～2時45分

場所：4406 Dwinelle Hall, UC Berkeley

出席者：高橋久子（総領事館）南雅彦 増山和恵

（記） 齊藤真由美 栗岡由布子 森岡妙子 今瀬博 シアース・多都美 大塚 神原若枝（役員名簿順）

1. FLANC 年次発表会 11月6日（土）

- FLANCの年次発表会は、Berkeley City Collegeにて11月6日（土）に開催される。昨年度FLANC会議の参加登録費は、会議事前に10名以上の登録があればFLANCのメンバーの有無にかかわらず一人\$25だったが、今年もまた、南先生が交渉に当たってくださるとのこと。FLANCの年次発表会のインフォメーションは <http://flanc.org/wp/wp-content/uploads/2010/04/FLANCPreRegUCB2010.pdf>
- 例会のゲストスピーカーは、JETプログラムの参加者、アロン・ウルフォーク氏が作成した映画「The Harimaya Bridge はりまや橋」 <http://www.harimaya-bridge.jp/index.php> を紹介し、アロン・ウルフォーク氏に映画についてのお話しいただく。まずは総領事館の高橋氏に連絡を依頼する。

2. 日本語弁論大会 11月7日（日）

- 第37回日本語弁論大会は、サンフランシスコ日本領事館広告文化センターで11月7日（日）に開催予定。変更事項は、「過去に使ったタイトルやスピーチは使わないこと

で、使用した場合は参加失格とされる」で、また今年から日本への航空券の賞品はなくなったという2点である。

3. 日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）12月5日（日）

- 今回は全米11カ所で開催予定。サンフランシスコ会場は、受講者上限が600名となっている。これはLos Angelesに続き2番目に大きい。ポスター、パンフレットの配布。南先生より、年々、受講者が増えているので、今年も、試験監督の募集が必要であるとの報告。16教室に2人ずつで監督してもらうので、約30名ほど必要である。試験監督者は労働許可のある人のみ採用。すでに中国では今年7月に（上級のみだが）新試験が実施されており、12月の試験では5段階レベル（N1、N2、N3、N4、N5）のものが使われることになる。詳しくは <http://www.jlpt.jp/j/about/pdf/guidebook1.pdf>

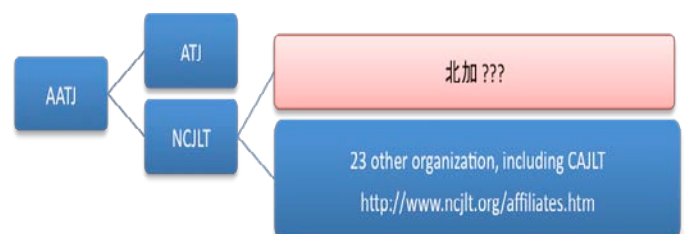
4. 確認：仕事の分担（役員会記録）

- 学園代表（空席）
- 高校代表の件に関しては増山が連絡をとる。
- 全員の任期が2011年春までとなっているので、次回の役員会には次の役員の方々にも来ていただき、引き継ぎを行うことにする。

5. その他：教師会にとって何がたいせつなのか？（今後議論してゆきたいこと）

- Affiliationについて
南先生より国際交流基金のワークショップ参加報告で、日本語教師会はATJとNCJLTが合体されAATJが設立されたと教師会の組織の説明があり、今の時点でナショナルレベルの組織（NCJLT）のaffiliateになったほうがいいのかどうかという点について意見を求めた。この件に関しては、次の役員の方々も含めて検討していく。また Regional Levelでの繋がりも大切であると話された。

日本語ナショナルレベル



- メンバーシップについて (individual, institutional?) : 機関でのメンバーシップとなると、会への収入が減ってしまう可能性がある。高校、大学などの先生は個人のメンバーシップとする反面、community-based institutionなどは機関でのメンバーシップでもいいかもしれないという意見もあった。この件も、今後検討をしていく。
- サービスの差別化 : 「メンバーでないと享受できないことは何か?」「具体的に教師会に入ってもらおうためのアピールとして、どんな利点があるのか?」という話合いの中で次のようなアイデアが提示された。まず、南先生より来春3年ぶりに『日本語実用言語学国際学会』を開く予定であり、その際に北加のメンバーが学会への参加をしやすくするような計画を現在考えていると話された。
- ニュースレター改善策 : また、メンバーニュース (例 : 出版物、受賞、学生のニュースなども) を掲載することに決定。「まずは役員の先生方の近況を次のニュースレターに出したらいいのでは」という意見がでたので、今回から実施する。



「言葉の窓」

「馴染む」から広がる世界

猪俣公克

先日、日本文化のクラスで「隔たる」と「馴染む」という2つの概念を説明する機会があった。「謙虚」、「敬語」、「遠慮」等の概念を教えた後だったので、それらにからめ「隔たる」の方はすんなりと導入できた。「馴染む」の方は贈答等の習慣の紹介、会社の慰安旅行、祭りなどのイベントを紹介しながら説明したのだが、説明しながら自分は日本語のクラスにおいて、日本語で人と「馴染める」ような表現をどれだけ教えてきたのだろうか…と自省することになった。

私の前勤務地では指定された教科書において、常体の導入が非常に遅く、コミュニケーションの一つの側面しか教えていないことにどこか後ろめたさを感じていた。コミュニケーションを俯瞰した時、「隔たる」重視の言語教育では明らかに偏りがある。日本語においても、スラングや常体を

含むくだけた表現を使ったり、冗談を言ったりして、人と「馴染む」方法が豊富にある。たとえば、社会人の初対面という比較的フォーマルな場面においてさえ、丁寧な表現からくだけた表現にシフトするなど、「馴染む」言語行動がみられることも実証的に示されている。

そういえば、先日の話であるが、「行くんだってばよ」の意味を聞いてきた学生がいた。初級のクラスで不意打ちをうけた気分だったが、よく聞いてみると、アニメのテーマソングでよく使われる表現らしい。「アニメ (またはゲーム) で聞いた日本語とクラスで習う日本語はどうして違うのか」というのもたまに受ける質問の一つである。スラングやくだけた表現を含む常体使用は、「馴染む」言語行動になるが、日本語教育では一般的に「丁寧な」表現を教えることが主流になっている。しかし、今の学生は多くがアニメやオンラインのゲーム等を通し、想像以上に日本語のくだけた表現に触れているようだ。

幸い、現在の勤務地であるサンフランシスコ市立大学 (シティーカレッジ) では比較的早い段階から、(十分とは言えないかもしれないが) 常体やくだけた表現が導入される。「やった!」や「きまり!」などのシンプルな表現と使い方を教えるだけでも、学生が目を輝かせることがよくあり、考えさせられることも多い。昨今、学習者の主体性を重んじる教育の必要性が強調されているが、現在の学習者がどのような日本語に触れ、どのような表現を学習したがつているのかについて教師が知っておくことも、主体性を最大限に奨励する環境づくりに不可欠だろう。

たしかに、丁寧体を基盤として日本語を教えることは一番無難ではあるのだろう。丁寧であれば相手の気分を害することも最小限に抑えられるかもしれない。その一方で、丁寧すぎても相手との距離を広げすぎることもあるし、また、若い者同士がくだけた表現を使いながら、お互いの距離を縮めていく場面もあることを、日本語教師は忘れてはいけないと思う。自戒の念もこめて書くが、教師として、または一社会人として学生の前に立った時、何か使命感に近いようなものを感じ、日本語の「隔たる」上での丁寧さに固執してしまう傾向が教師にはありがちではないだろうか。

現段階では理想にすぎないのだが、学生達が「馴染む」言語行動も効果的に使え、知人や友達を増やしていくことをサポートできるような日本語教育を実践できたら素晴らしいと思う。その土台をつくるためには、学生が触れている日本語の現状についても、日本語教師はアンテナを張り巡

らせている必要がある。私たち教師とは徐々に年齢が離れていく学生達が接している日本語を通して、私たちの方が学ぶことも多いだろう。そこから、日本語教育の可能性だけでなく、学習者、教師の世界も広がりを見せるのではないかと私は期待している。(サンフランシスコ市立大学)



ワークショップ・ イベントのお知らせ

● Foreign Language Association of Northern California (FLANC)

- 日時：11月6日(土)
- 場所：Berkeley City College

Registration:	8:00 a.m. – 1:00 p.m.
1 st Interest Session:	9:00 a.m. – 9:45 a.m.
Opening Remarks,	
Keynote Address:	9:55 a.m. – 10:15 a.m.
2 nd Interest Session:	10:30 a.m. – 11:15 a.m.
Lunch, Poster Contest Winners:	11:45 a.m. – 12:45 p.m.
3 rd Interest Session:	1:00 p.m. – 1:45 p.m.
4 th Interest Session:	2:00 p.m. – 2:45 p.m.
NCJTA Meeting:	3:00 p.m. – 3:45 p.m.
Raffle, Silent Auction:	TBA

- NCJTA 会員の皆様は NCJTA のほうに前もって \$20 お支払いの上 (通常 FLANC メンバー \$45、ノン・メンバー \$65)、事前登録していただきますと、FLANC にも終日参加できます (FLANC のメンバーか否かは問いません)。本 Newsletter に申込書を添付しますので、ご記入の上 \$20 を添えて会計の斎藤先生までお送りください。小切手の支払先名は「FLANC」ではなく、「NCJTA」ですのでお間違いのないようお願いします)。

- 登録料：\$20
- 小切手支払先名：NCJTA
- 小切手の送付先：Ms. Mayumi Saito 2105 Saratoga Place, Davis CA 95616

- NCJTA 秋の例会は、従来通り午後 3 時から FLANC の午後のセッションの 1 つとして開催予定ですが、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう極力配慮いたしますので、こちらにもどうかふるってご出席ください。NCJTA の例会では、2009 年 5 月『第 62 回カンヌ国際映画祭マルシェ』で上映され、去る 5 月と 8 月にベイエリアでも公開された映画『The Harimaya Bridge はりまや橋』の監督ア

ロン・ウルフオーク (Aaron Woolfolk) 氏をお招きして、お話を伺います。氏は UC Berkeley 卒業後、自身も JET プログラムに参加され高知県で生活された経験を持つアフリカ系アメリカ人映像作家です。映画は昼食時間に上映予定ですが、どんな人の心にもある誤解、偏見、憎しみ、そして愛を描き、国境という「橋」を越えた日米韓合作映画で、愛した男性を想いながら孤独に暮らすひとりの女を高岡早紀が演じています。どうか御期待ください。

- <内容>サンフランシスコで暮らす写真家のダニエル・ホルダー (ベン・ギロリ) には、愛してやまない一人息子・ミッキー (ヴィクター・グラント) がいた。ミッキーは日本の高知県のとある田舎町に英語教師として赴任したが 1 年も経たずに交通事故に遭い命を落としてしまう。悲しみに暮れるダニエルには、太平洋戦争時の捕虜収容所で自らの父を失った過去があった。息子をも日本で命を失い、日本への抑えきれない嫌悪感と偏見を抱えながら、画家だった息子が遺した絵を取り戻すためにダニエルは単身日本を訪れることにする。そこで高知の人々に愛されていた息子の生活を目の当たりにし、激しく戸惑う。 <http://www.harimaya-bridge.jp/>
- The film is a drama about an African-American man, Daniel (Ben Guillory) who lives in San Francisco but must journey to rural Japan to claim some important items belonging to his late son (Victor Grant), from whom he was estranged. Daniel struggles to overcome his animosity toward the country, a result of his own father's death in a Japanese POW camp during WWII, but things get complicated when he learns that his son has left behind some secrets.

第 37 回日本語弁論大会のお知らせ

北加日米会 (Japanese American Association of Northern California: 略称 JAANC) 及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第 37 回日本語弁論大会が、11 月 7 日 (日) に同総領事館広報文化センター (Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105) において開催されます。昨年

度から NCJTA も後援団体として参加していますが、今年も昨年同様、午前9時30分からは中高校生の弁論大会、午後1時30分からは大学・成人の弁論大会を開催する予定です。

中高生の部の参加資格は、①中・高生で、②6歳以後1年以上日本に継続滞在経験のない人が対象です。入賞者には、賞状、賞金及び賞品が授与されます。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。日本語を日常話している家庭からの参加者とそれ以外の参加者の2グループに分け、それぞれのグループでコンテストを行う予定です。大会では各学校の推薦（学校の推薦枠は代表1名、補欠候補1名）による参加申し込みを受け付けます。中高生参加・出場申込書ご希望の方は、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター高橋さんにご連絡ください☎(415) 356-2461, education@cgjsf.org（中高生出場申込書は同センターで受け付けます。）

大学・成人弁論大会の参加・出場資格は、①米国民権及び永住権保持者で、②大学生、または18歳以上、③6歳以後2年以上にわたって日本に継続滞在経験のない方が対象です。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。1位から5位の入賞者には賞金が、また上位3位入賞者にはトロフィーが授与されます。大学・成人部の参加・出場申込書ご希望の方は、北加日米会事務所☎(415) 921-1782 ファックス(415) 931-1826、または八木邦子さん☎(209) 473-3488までご連絡ください。

大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に10月9日（金）午後5時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるようご推薦ください。

（文責：南 雅彦）

日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）のお知らせ

国際交流基金（Japan Foundation）では、日本語学習者を対象に日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）を1984年より日本国内だけでなく国外においても実施してきました。日本語能力試験は、習得した日本語の能力を客観的に測定し、

これを公的に認定する制度です。西海岸では以前はロサンゼルスのみで日本語能力試験を受験しなければなりませんでした。6年前からサンフランシスコ・ベイエリアでも受験できるようになりました。現在、試験会場はアトランタ、ボストン、シカゴ、ファイエットヴィル（アーカンソー大学ファイエットヴィル校）、ホノルル、ロサンゼルス、ニューヨーク、フィラデルフィア、サンフランシスコ、シアトル、ワシントンDCの11カ所です。ベイエリアでは、12月5日（日）にサンフランシスコ州立大学（SFSU）で今年度も引き続き日本語能力試験が実施されます。試験は、今回から新試験形式を採用し、従来の4レベルから5レベル（N1, N2, N3, N4, N5）となります。これは従来の3級と2級の難易度に大きな隔たりがあるという批判に対応したもので、従来の2級をN2とN3に分割することで、2級に合格することが隘路とならないようにする、またコミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図があります。最も難易度の高いN1から最も難易度の低いN5まで5つのレベルに別れていますので、自分の能力に適したレベルを受験することができます。試験科目は、これまで同様「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」に大別できますが、N1とN2では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目になるというような変更点もありますので、ご注意ください。受験費用はN1、N2、N3が50ドル、N4とN5が40ドルとなっています。受験手続は、オンラインでも、郵送でも可能ですが、郵送の場合は所定の願書に必要事項を記入し、ロサンゼルス の Japan Foundation, Language Center まで申し込んでください。なお、オンラインでも郵送でも詳細は <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=8>, <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=23> をごらんいただくか、電話（213）621-2267（月-金9:30 a.m. - 5:30 p.m.）、もしくはE-mail: noryoku@jflalc.org までご連絡ください。ちなみに、今年度の受験願書の受付期間は8月2日から9月24日までとなりましたが、諸般の事情で10月1日まで延期することになりました。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語能力試験に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。また、サンフランシスコは2番目の規模で、受験者定員が600名です。このように年々大規模になりますと、NCJTA会員の先生で労働許可をお持ちの方には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。ご協力よろしくお願い申し上げます。

（サンフランシスコ州立大学 南 雅彦）

JET (Japan Exchange and Teaching) プログラム 募集ご案内

2011年度JETプログラム (<http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jet/index.htm>) の募集を開始いたします。応募書類に関しましては9月下旬頃に在米日本大使館のホームページよりダウンロードが可能となります。詳細は同館ホームページをご覧ください。<http://www.us.emb-japan.go.jp/JET/> 御質問等がございましたら、いつでも当館にご連絡下さいますようお願いいたします。Peter Weber: JET Program Coordinator (TEL: (415) 356-2462, Email: jet@cgjsf.org) JETプログラムでは先生方より毎回ご協力を頂き心より感謝申し上げます。今後とも引き続きご支援頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

- The 2011 JET Program application will be available online at the end of September/early October on the Embassy of Japan website <http://www.us.emb-japan.go.jp/JETProgram/homepage.html>.
- For More Information Regarding the JET Program, please visit the following sites:
 - JET Program Official Site International - <http://www.jetprogramme.org/>
 - JET Program Official SF Site Consulate General of Japan in SF - <http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jet/index.htm>
 - Twitter (US): <http://twitter.com/jetprogram>

If you have any further questions about the JET Program, please feel free to contact our office any time at jet@cgjsf.org or (415) 356-2462.
(総領事館 高橋久子)



先生の紹介欄

加藤陽子先生のご紹介

- 1) お名前をお名前を教えてください。
加藤陽子と申します。
- 2) 教えている学校名、町を教えてください。
カリフォルニア州立大学サクラメント校と、サクラメント郊外にあるラグナクリーク高校で教えています。

3) 日本語教師はいつから？
2006年からです。サクラメントにあるローズモント高校、ジョージア州アトランタのエモリー大学で教えた後、去年から掛け持ちで上記の大学と高校で教えています。

4) ご趣味は？
最近忙しくてあまり機会がないのですが、ハイキングやサイクリングが好きです。シエラネバダの壮大な自然に囲まれると心が癒されますね。

5) 日本の出身地は？
生まれも育ちも神戸です。日本語の授業では標準語なので、時々無性に関西弁で話したくなる時があります。

6) アメリカに来てから何年ですか？
1998年に留学生として来たので、もう12年になります。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。
高校と大学の仕事の掛け持ちは大変ですが、全く違った2つの環境で教えることで学ぶことも多いような気がします。今は高校の Japanese Culture Club のアドバイザーをするのが楽しいですね。クラブの役員の生徒達が日本文化についての知識を広めようと色々なアクティビティを計画しているのを見てると、とても頼もしく思います。これからも今の仕事を続けていきたいです。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。
色々な学校の先生方と情報交換できたらと思っております。よろしくお願い致します。

佐藤愛子先生のご紹介

- 1) お名前を教えてください。
佐藤愛子と申します。有名な女流作家さんと同姓同名です。
- 2) 教えている学校名、町を教えてください。
パークレーにあるカリフォルニア大学パークレー校で教えさせていただいています。その他に、毎週土曜日はサンフランシスコ市内にある桑港学園で子供のクラスも教えさせていただいています。子供のクラスは今年で4年目となります。

3) 日本語教師はいつから？

日本語は2007年にサンフランシスコ州立大学で南先生のTAとして教えたのが初めてです。初日の緊張感は今でも忘れられません。

4) ご趣味は？

ピクラムヨガです。数年前に母に薦められて始めました。温室40度以上、湿度55%という暑い環境の中で1時間半様々なストレッチやポーズをしますが、体の内側から温まり、大量の汗が流れ出ます。そのため、身体の中の毒素が自然と体の外に流され、日常の疲れも軽減できます。

5) 日本の出身地は？

生まれは鹿児島県です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

幼い頃に父の仕事の関係で渡米したので、20年以上になります。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

日本語教師としてまだまだ駆け出しで、毎日が勉強の日々です。10年、20年後もこの初心の気持ちを忘れず一日でも早く一人前の日本語教師になれるよう頑張りたいと思います。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

NCJTAの会合などで多くの先生方とお目にかかれるのを楽しみにしております。新米教師ですが、どうぞよろしく願い致します。

近況報告

南 雅彦

- 『言葉と文化 言語学から読み解くことばのバリエーション』(2009)を、くろしお出版から刊行しました。

http://www.9640.jp/xoops/modules/bmc/detail.php?book_id=10248&prev=search 『言葉と文化』をテキストにして、6月初旬に神戸大学の大学院で特別集中講義を行ないました。その後、東京の国立国語研究所から国語研コロキウム招待講演に招かれ、『語りの結束性・一貫性—日英バイリンガル児童の作話をどう評定するか—』というタイトルでバイリンガリズムについてお話ししました。神戸と東京ではたくさんの方々から、すばらしい刺激をいただきました。

<http://www.ninjal.ac.jp/event/colloquium/>

- Association of Teachers of Japanese (ATJ) の Executive Board member (2010-2013) になりました。<http://www.aatj.org/atj/about/board.html>
- Foreign Language Association of Northern California (FLANC) の会長になりました。http://fla-nc.org/wp/?page_id=81
- 『咸臨丸150周年記念事業』の一環としての『日米草の根交流サミット』(日系人グラスルーツ・サミット: America-Japan Grassroots Summit San Francisco Bay Area 2010) というところで、在サンフランシスコ日本国総領事館の総領事公邸に呼ばれまして、そこで元駐日大使のマイケル・アマコスト氏 (Michael Hayden Armacost) と再会しました。アマコスト氏は1989年から1993年まで在日本アメリカ合衆国特命全権大使だった人です。以前、総領事公邸でアマコスト氏にお会いしたことがあるのですが、そのときは着席ディナーパーティーで横に座ることになりまして、前日から詰め込んであった知識もさほど役にはたらず、かなり緊張しました。今回は2度目ということもあり、前回のような緊張感はなく、わりとリラックスしてまるで旧知の間柄のような態度で話しかけたら、気さくに対応してくださいました。

感激だったのは、日本人大リーガー第1号で、サンフランシスコ・ジャイアンツのピッチャーだった村上雅則氏 (マッシー・ムラカミ) が出席されていて、お話しする機会をいただけたことです。メジャーリーグのパイオニアと言えば野茂英雄と思いがちなのですが、村上氏は1964年頃に当時の南海ホークスからサンフランシスコ・ジャイアンツのマイナーのフレズノに野球留学していて、メジャーリーグに初めて昇格した人です。当時、私は小学生だったので記憶がさほど定かではないかもしれませんが、その後、南海ホークスが「帰国するように」と命じたことから、ゴタゴタもあったようです。そうしたことが当時の新聞などで報道されていたので、とても印象に残っていました。その村上氏に会ってお話しできたものですから感激でした。私が一方的にしゃべってはいましたが、それを丁寧に聞いてくださり、私の素人丸出しの質問にもちゃんと答えてくださいました。

実は、私もハーバード大学の大学院に入学した際の最初のセミナーで自分の名前を「マッシー・ミナミ」と書いたのですが、そのセミナーの教官で、後に私のアドバイザーになった人が、以前から私の名前を知っていたようで、「マサヒコ」と呼んだのです。もしそのとき私が「マッシー・ミナミ」になっていたら、その後の私

の著作、少なくとも英語の著作は Masahiko Minami ではなく Mashi Minami になっていたかもしれません。If I had been called "Mashi" by that influential professor at that time, my books, at least English ones, might have been published with the name of "Mashi Minami" instead of "Masahiko Minami" (仮定法過去完了)

増山和恵

- 今年もまた、Advanced Placement Japanese Language and Culture Development Committee の役員を務めることになりました。
http://apcentral.collegeboard.com/apc/members/exam/about_exams/50214.html
- 『アセスメントと日本語教育：新しい評価の理論と実践』（佐藤・熊谷編 くろしお出版 2010年）の第7章『複式授業におけるアセスメント：文学を取り入れた日本語クラス』を執筆しました。「教師と学生が対話やプロセスを重視しともに評価しあい、教室内だけでなく社会とも積極的に関わっていくこと、つまり、「アセスメント」という考え方が、教師と学生の成長にいかに関係するかの」というテーマに基づいて、その理論と実践が収められています。
http://www.9640.jp/xoops/modules/bmc/detail.php?book_id=11304&prev=released

森岡妙子

- Rosa Parks JBBP Elementary School で教えていますが、前 NCJTA 役員で現在は東京未来大学で教えられている田中真奈美先生と交換プログラムを始めました。田中先生の近況は以下をごらんください。
http://www.tokymirai.ac.jp/teacher/man_tanaka/index.html

在サンフランシスコ日本総領事館、広報文化センター高橋久子氏

- 日本総領事館の近況などをウェブのリンクを交えて報告することになりました。Scheduled events that take places at the Consulate General of Japan in San Francisco and around the Bay Area are listed on the Consulate General of Japan's website. All the events are Japan related events. Please visit our website: http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/en/e_m09_01.htm

編集後記

新年度、秋学期も始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお越しの事と存じます。

今回のニュースレターも日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様からのご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げます。こうした活動の一環としまして、今回は役員の近況報告を掲載しましたが、次回からは会員の皆様のニュースを掲載したく存じます。どうか、お気軽にご意見、ご質問、ご感想等ばかりでなく近況報告を、南、神原、栗岡、今瀬までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu

神原：wkambara@berkeley.edu

栗岡：kuriokayufuko@hotmail.com

今瀬：hiroimase@yahoo.co.jp



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>

NCJTA. c/o Masahiko Minami
Department of Foreign Languages
サンフランシスコ州立大学
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132
(415) 338-7451

<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO (FLANC 連絡員兼任) :
Masahiko Minami 南雅彦 (同上)
E-mail: mminami@sfsu.edu

副会長 : Kazue Masuyama 増山和恵
California State University, Sacramento
E-mail: kmasuyama@csus.edu

会計 : Mayumi Saito 齋藤真由美
University of California, Davis
E-mail: msaito@ucdavis.edu

ニュースレター編集委員：
Yufuko Kurioka 栗岡由布子
Institute of Buddhist Studies
E-mail:kuriokayufuko@hotmail.com

<各レベル代表>

小学校：

Taeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: Taeko3568@aol.com

中学校：

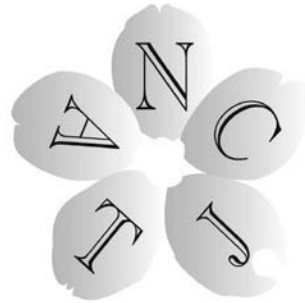
Hiroshi Imase 今瀬博
Odyssey School
E-mail: hiroimase@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表：

Tazumi Searce シアース多都美
De Anza College, Mission College
E-mail:tazumi@comcast.net

大学代表：

Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association